

平成18年度「福井元気宣言」推進に係る施策の取組結果

(平成19年3月末現在)

「福井元気宣言」に掲げられた「元気な社会」や「元気な県政」のビジョンを着実に実現していくため、施策・事業の取組結果について、次のとおり報告します。

平成19年3月

教育長 西藤 正治

I 総括コメント

- ・豊かな人間性を持った魅力ある人づくりを目的として、長期的展望に立った新しい施策を展開しました。
- ・30人学級編制導入などきめ細かな教育体制の拡充については、3年目となる「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、小学校1・2年にはボランティアと非常勤講師を、小学校3～5年にはティーム・ティーチングや少人数指導を、小学校6年～中学校3年には少人数学級編制を導入しました。
- ・教員の指導力向上については、教育研究所等運営協議会における検討をもとに、研修体系の抜本の見直しを行い、教員採用前の研修として、採用内定者を対象にした研修および大学等の新規卒業生対象に学校現場の体験研修を実施しました。新年度においては、臨時任用講師を対象とした研修、教員養成塾、授業名人の創設といった指導力向上のためのさらなる施策を実施します。
また、教員の教科指導力の向上を図るため、これまで高校教員を対象として行ってきた民間教育機関への教員派遣や民間教育機関講師による研修会を、新たに小・中学校の教員についても実施しました。
- ・「福井型コミュニティ・スクール」については、全市町に設けられたモデル校の活動を基に県内の小・中学校に拡大しました。新たに推進校を105校指定し、各学校で家庭・地域・学校が連携した開かれた学校づくりを進めるとともに、組織の一元化についてのモデル校を選定し、地域・学校協議会の構成メンバー、協議内容等の検討を進めました。
- ・高校生の学力向上については、民間教育機関への教員派遣など教科指導力向上に係る施策を実施するとともに、学力向上のための教員を24人配置しました。また、各高校独自の学力向上策への支援、基礎学力診断テストおよび大学入試センタープレテストの実施など能力や個性に応じた教科指導や進路指導を充実するための各種施策を実施しました。
- ・英会話力の向上については、小・中学校において、英会話力の向上と国際理解教育の推進のため、夏季休業中などにALT(外国語指導助手)等の外国人講師による英語集会や英語セミナーを実施するとともに、英会話力向上事業の指定校の実践研究等をまとめた研究報告書を作成し、県内全小・中学校に配付しました。
高校においては、英会話力向上のための重点校を選定し、教材の購入費等について支援しました。
なお、本年度の大学入試センター試験における英語リスニングテストにおいては、民間教育機関の調査による平均点が、昨年引き続き2年連続全国1位となりました。

- ・子どもの安全確保については、県下212小学校区において、市町、警察、学校など関係機関や地域住民の協力を得て「子ども安心3万人作戦」を展開し、登下校時や帰宅後等の子どもの見守り活動を実施し、地域への定着を図りました。
また、市町が実施する安全向上策および地域が実施する子どもの登下校時の安全確保のための活動を積極的に支援しました。
さらに、全ての小・中・高校において作成している安全マップ・危機管理マニュアルについて、内容の更新・改善を推進するとともに、防犯教室講習会、学校安全ボランティア講習会を実施し、安全管理・安全教育の充実を図りました。
- ・スポーツの振興については、誰もが気軽にスポーツを楽しめるスポーツ活動の場としての「県民スポーツ祭」を昨年度に引き続き開催し、25,795人の県民が参加しました。また、スポーツ拠点づくり推進事業では、越前町のホッケー競技場に人口芝コートを増設し、18年11月に「第7回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」が開催されました。競技力向上については、本県出身選手がアジア大会(ドーハ)で6競技10種目で入賞したほか、ジュニア層を中心に日本代表や国際大会に14人の選手、4人の指導者が参加しました。
- ・文化の振興については、今年度より「ふくい県民総合文化祭」として、メインフェスティバル、ふくい子ども文化祭、ふれあいフェスティバルを開催し、多くの県民が文化・芸術に親しみ、楽しみ、学ぶことができる環境づくりを推進しました。また、より多くの子どもたちが本物の文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供するため、子ども鑑賞シートの設置、ちびっこコンサートおよび芸術鑑賞教室を実施しました。
- ・福井県立恐竜博物館については、県内はもとより国内7府県、国外3か国で調査研究活動を実施するとともに、魅力ある特別展の開催や県内外の小中学校の訪問、出前授業の開催など積極的な誘客活動を行った結果、来館者数は恐竜エキスポが開催された平成12年度を除けば過去最高となりました。
- ・ふるさと福井の文学の情報提供については、4月に、県立図書館内に「ふるさと文学コーナー」を開設し、郷土作家や福井が舞台の作品等を、いち早く県民に紹介しました。また、特定の郷土作家をテーマにした企画展を4回開催し、多くの県民がふるさと文学に興味を持っていただくための事業を展開しました。
また、歴史資料の活用推進については、図書館で所有している「五箇条の御誓文」草稿原本や「解体新書」初版本を活用して、夏季休業中と11月に特別展を開催し、これまで以上に、多くの県民に対して貴重な歴史資料を鑑賞できる機会をつくりました。

II 取組項目に係る結果について

- ・別紙「平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)」のとおり

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>○ 重点項目</p> <p>1 30人学級編制の導入</p> <p>子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、学級編成基準の適正化等に引き続き取り組むとともに、学校生活を支援するボランティア制度の一層の普及や非常勤講師の配置を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすため、「元気福井っ子笑顔プラン」を継続して実施しました。</p>	
<p>〔 小学校1、2年 ボランティア制度の普及 非常勤講師の配置 〃 3～5年 ティーム・ティーチングや 少人数指導の強化 〃 6年 少人数学級編制 37人 中学校1年 〃 32人 〃 2、3年 〃 37人 〕</p>		<p>〔 小学校1、2年 ボランティア登録者 5,674人 低学年学校生活サポート非常勤講師の配置100人 小学校3～5年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化 小学校6年 少人数学級編制を実施 37人 中学校1年 〃 32人 中学校2、3年 〃 37人 〕</p>	
<p>2 高校生の学力向上</p> <p>高校生の学力向上を図るため、進学希望者を対象として夏季と春季に学力向上セミナーを開催するほか、大学入試センター試験のプレテストを5つの大学のキャンパスで実施します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>7、8月に3年生の進学希望者を対象に予備校講師および教員による学力向上セミナー（夏季）を開催しました。</p>	
		<p>〔 一次対策講座 受講者数:532人 小論文講座 受講者数:509人 個別対策講座 学習法ガイダンス 受講者数:138人 二次対策講座 受講者数:105人 〕</p>	
		<p>3月18日に2年生の進学希望者を対象に予備校講師および教員による学力向上セミナー（春季）を開催しました。</p> <p>11月に大学入試センター試験プレテストを実施しました。</p> <p>〔 参加人数 3,276人 〕</p> <p>各校が取り組むオープンキャンパスへの参加、大学講師の模擬授業、学習合宿等に支援を実施しました。</p>	
<p>大学入試に対する問題研究、指導法の研究等を行うチームを設置し、県内の高校が連携して学力向上に取り組めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教科ごとに大学入試センター試験プレテスト問題の解答のポイントを作成するなど大学入試に対する問題研究、指導法研究を実施しました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
教科指導や進路指導の充実を図るため、中核となる教員の配置を24人に増員するとともに、学習合宿や大学訪問など各校独自の学力向上策を支援します。また、普通科、総合学科設置校18校において高校生学力診断テストを実施します。		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の指導力向上のため大手予備校への派遣や学力向上のための教員の増員を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のための教員配置 /17 20人→/18 24人 ・予備校教員派遣者数 27人 ・予備校講師による研修 受講者数46人(数学21人、英語25人) <p>高校入学時の学力分析と個に応じた指導を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生基礎学力診断テストの実施 1回目 実施時期:4月 実施科目:国・英・数 参加人数 4,041人 2回目 2月実施 学習到達度をチェック 	
<p>3 教員の資質向上</p> <p>(1) 教員の指導力向上</p> <p>教員の指導力向上を図るため、採用前研修の導入や指導主事の在り方などを含め、より効果的な研修について教育研究所等運営協議会を中心として総合的な観点から検討します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の指導力向上に向けた教員研修体系の抜本的見直しについて、18年12月に協議結果をとりまとめました。また、教員業務の多忙化解消に向けた具体策も示しました。今後も、この提言をもとに、具体策を随時実施していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事制度の見直しと授業名人による授業力改善、授業力アップ ・教育研究所の研修センターとしての機能強化と研修の充実 ・教員を志望する講師を対象とした教員養成塾の設置 ・臨時任用講師を対象とした研修の新設 ・直採等を対象とした研修の充実 ・各種会議や報告文書の根本的な見直し 	
<p>小・中学校教員の教科指導力の向上を図るため、民間教育機関への教員派遣や民間教育機関講師による研修会を行うとともに、校内研修を実施します。</p> <p>[民間教育機関教員派遣者数 30人]</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校教員の教科指導力の向上を図るため、民間教育機関への教員派遣や民間教育機関講師による研修会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間教育機関教員派遣者数 教員30人、指導主事24人 ・民間教育機関講師による研修会参加者 1,770人 	
<p>高校教員の教科指導力の向上を図るため、大手予備校への教員派遣や予備校講師による教員研修会を実施します。</p> <p>[大手予備校教員派遣者数 18人]</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の指導力向上のため大手予備校への教員派遣、予備校講師による研修を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備校教員派遣者数 教員27人 ・予備校講師による研修会参加者 数学21人、英語25人 	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>教員の指導力向上のため、高校教員を対象とした教科指導力向上のための授業研究会と小論文の指導法の研修会を開催します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>予備校講師による研修の受講者が各学校において公開授業を実施しました。 また、予備校講師による小論文研究会を開催しました。</p> <p style="text-align: center;">〔 小論文研究会参加者数 184人 〕</p>	
<p>教科に関する専門的学力、優れた教育技術の研究・研鑽を図るため、福井大学や県外の教育大学等の大学へ教員を派遣します。</p> <p style="text-align: center;">〔 大学院教員派遣者数 小学校2人 中学校4人 高校6人 〕</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の指導力向上を図るため、18年度においては計12人の教員を4大学に派遣しました。</p> <p style="text-align: center;">〔 大学院教員派遣実績 小学校2人 中学校4人 高校6人 〕</p>	
<p>(2) 教員採用試験の改善 ・優秀な人材を幅広く確保するため、受験年齢制限を撤廃するとともに、講師経験者に対する1次試験免除制度を創設します。 また、本県の特性に応じた募集区分の在り方について検討します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>受験年齢撤廃や講師経験者に対する1次試験免除制度は今年度試験(19年度採用)から実施しました。募集区分の在り方については、他県の状況調査を行うなど資料収集を行いました。</p>	
<p>(3) 指導力不足等教員への対応 教員の資質等に関する評価委員会を開催し、その答申を踏まえ、校内研修や校外研修により指導力の回復に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教員の資質等に関する評価委員会を今年度は7月、9月、3月の3回開催し、その答申を踏まえ、指導力回復に向けた研修を実施し、10人の指導力不足教員に対し6人の回復に努めました。</p>	
<p>4 子どもの安全の確保 学校内や校区における子どもの安全・安心を確保するため、各学校の実情に応じた危機管理マニュアルの再点検や改善、安全マップの更新による危険箇所の把握や安全意識の高揚に努めるとともに、子どもが登下校時に不審者に遭遇した場合の対応等を教える防犯教育や、不審者侵入に対する教職員への研修等を充実させ、安全教育の徹底を進めます。</p> <p style="text-align: center;">〔 防犯教室の実施率 100% スクールガード講習会の実施 〕</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小・中・高校において作成している安全マップ、危機管理マニュアルについては、安全点検等の機会をとらえての安全マップの内容更新、避難訓練実施時や防犯教室等(教職員対象)における危機管理マニュアルの再点検や実践的内容への改善を推進しました。 また、より実践的な防犯教育や研修が開催できるよう、各学校の安全管理・安全教育の責任者や保護者を対象に防犯教室講習会を実施しました。 さらに、登下校時の見守り活動の一層の充実のための学校安全ボランティア講習会を実施しました。</p> <p style="text-align: center;">〔 ・防犯教室の実施率 100% ・防犯教室講習会 H18.8.11 フェニックスプラザにて実施 参加者 教職員、PTA、見守り隊員等 224名 ・スクールガード講習会 H18.10.27~11.10 県内6地区にて実施 参加者 見守り隊員、PTA、学校安全責任者 計333名 〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
学校への防犯ビデオカメラの設置、メール等による連絡システムの整備等、市町が実施する学校や通学路等において子どもを守るための安全向上策を支援します。また、地域の自治会、PTAなどが地域の実情に応じて主体的に意欲を持って取り組むことができるよう、地域が学校と連携して実施する子どもの登下校時の安全確保のための活動を積極的に支援します。		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>市町が実施する安全向上策および地域が実施する子どもの登下校時の安全確保のための活動を積極的に支援しました。 (市町実施事業3、地域実施事業9 計12事業を支援)</p>	
<p>5 文化の振興</p> <p>(1) ふくい文化の総合的な推進</p> <p>県民が、いつでもどこでも文化に親しむことができる環境を整備するため、学校、病院、公共施設等において、県立美術館や県立博物館が所蔵する絵画や工芸品などの展示、ボランティア活動家や高校生などによるミニコンサートの開催を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「まちかどアートギャラリー」や「まちかどふれあいハーモニー」を実施し、県民が、いつでもどこでも文化に親しむことができる環境の整備を推進しました。</p> <p>・まちかどアートギャラリー 実施回数 4回 実施場所 大野高校、鯖江高校、丹南高校、若狭図書学習センター</p> <p>・まちかどふれあいハーモニー 実施回数 3回 実施場所 県立病院、済生会病院、若狭図書学習センター</p>	
<p>「第20回国民文化祭・ふくい2005」における文化交流・発表の成果を継承するとともに、日ごろの文化芸術活動について相互に交流し、発表する県民主体の文化の祭典として「ふくい県民総合文化祭(仮称)」を開催します。</p> <p>県民総合文化祭参加者数 10,000人 観客数 50,000人</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>ふくい県民総合文化祭を開催しました。</p> <p>・メインフェスティバル 開催日時 平成18年10月22日(日) 会場 福井県立音楽堂 出演者 トークセッション(文化対談) 山根一真氏ほか ふくい文化発表ステージ:7団体 約120人 来場者 約800人</p> <p>・ふくい子ども文化祭 開催日時 平成18年10月7日(土) 会場 一乗小学校 出演者 小・中学生および高校生 約180人 来場者 約500人</p> <p>・ふれあいフェスティバル 事業数 46事業 出演者 11,267人 来場者 47,160人</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
福井が誇る「福井県立恐竜博物館」および「フクイラプトル」などの恐竜研究成果を本県ブランドとして全国に向けて発信するため、研究・展示・PR活動などを強化していきます。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>恐竜博物館および恐竜研究成果を本県ブランドとして全国に発信するための事業を展開しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶南固城世界恐竜エキスポ(韓国)へ恐竜骨格の展出(4月14日～6月4日) ・世界の恐竜博2006(千葉市美浜区幕張)へ恐竜骨格展出(7月3日～9月19日) ・特別展「恐竜以前一エディアカラの不思議な生き物たち」(7月14日～10月9日) ・大空に羽ばたいた恐竜たち展(巡回展) 北海道旭川市(4月22日～6月25日) 静岡県浜松市(7月26日～9月10日) ・ミュージアムショップのリニューアルとフクイラプトル(骨格・復元)フィギアの発売(7月14日～) ・フクイラプトル・恐竜博士・フクイサウルス発掘隊のチームマインナス6%キャラクターチーム員登録およびPR推進 ・学術研究の実施 海外調査 中国、タイ、チリ 5回 国内調査 熊本など7府県 9回 ・出前授業の実施 県内 10校、県外5校 学校訪問の実施 県内111校 ・博物館ホームページの充実(研究スタッフ紹介ページ開設) 	
県内各地域に伝わる文化、歴史等をあらためて認識し、次世代に継承していくべき現在の福井の風景、行事、地名、日常の暮らしなどを記録する「平成ふくい風土記」の作成に取り組めます。		〔成果等〕 取組を継続します。	
		<p>「平成ふくい風土記」(仮称)作成委員会を4回開催し、作成の基本方針、全体構成、本文の内容構成、デジタル版の作成、執筆責任者の候補等について検討を行いました。</p>	
岡倉天心や白山交流など本県ゆかりの歴史的人物に関連した文化事業の開催や、他自治体と連携しながら、本県の歴史文化を全国に情報発信します。		〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。	
		<p>岡倉天心「茶の本」出版百周年記念特別展示を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔 場 所 県立美術館 期 間 9月5日～9月30日 入場者数 2,183人 〕 	
〔 岡倉天心特別展観覧者数 5,000人 〕			

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>ふるさと福井の文学を広く情報発信するため、郷土作家や福井が舞台の作品などを紹介する「ふるさと文学コーナー」を設置し、ふるさと文学に興味を持たせる取組みを積極的に推進します。</p> <p>〔ふるさと文学コーナーでの特別展 観覧者数 10,000人〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>4月11日に、県立図書館内に「ふるさと文学コーナー」を設置し、郷土作家や福井が舞台の作品等を、いち早く県民に紹介しました。また、特定の郷土作家をテーマにした企画展(4回)を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水上勉が描いた越前 (18. 6. 6～ 7.17) [2,512人] ・加古里子の世界一親から子へと読み継がれる絵本たち一 (18. 8.18～ 9.24) [3,338人] ・福井抒情派の詩人たち一岡崎純・広部英一と詩誌『木立ち』の同人一 (18.11.14～12.28) [3,454人] ・文学に描かれた福井一丹南編一 (19. 1. 4～ 3.11) [5,386人] <p>〔観覧者数 14,690人〕</p>	
<p>郷土の先覚者の足跡を学習するため、「五箇条の御誓文」草稿や「解体新書」初版本など、県立図書館等で所有する貴重な歴史資料を活用し、子どもたちをはじめ多くの県民が作品を鑑賞できるような多様な取組みを展開します。</p> <p>〔県立図書館での「解体新書」特別展 観覧者数 10,000人〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「解体新書」初版本を活用した特別展を県立図書館で開催したほか、県立歴史博物館では、「五箇条の御誓文」草稿原本を活用した特別展示を行い、子どもたちをはじめ多くの県民に貴重な歴史資料を鑑賞できる機会をつくりました。</p> <p>また、東京都荒川区との交流の一環として、企画展用に貸出し依頼のあった「解体新書」初版本等3点を、荒川区立荒川ふるさと文化館に貸し出しました。</p> <p>〔特別展「杉田玄白と解体新書」の開催 ・県立図書館(18.7.19～ 8.16)[8,601人] ・若狭図書学習センター(18.8.19～ 9.3)[1,507人] 観覧者数 10,108人 特別展示「由利公正」の開催(「五箇条の御誓文」草稿原本の貸出) ・県立歴史博物館(18.11.3～11.26) 観覧者数 2,734人〕</p>	
<p>(2) 子どものための文化芸術の促進</p> <p>総合的な学習の時間や学校行事の時間を活用し、「郷土に学ぶ」、「芸術・文化に触れる」、「活字に親しむ」などの地域に関する学習の時間を大幅に増やします。また、地域学習の中の「郷土に学ぶ」や教科の時間の中で、教員が作成した小・中学生向けの「茶の本」翻訳資料を活用するなど、郷土の先人の気概に触れる学習を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「郷土に学ぶ」、「芸術・文化に触れる」、「活字に親しむ」などの地域に関する学習の時間を大幅に増やしました。</p> <p>〔平均学習時間(見込) 小学校 22時間 → 46時間 中学校 16時間 → 32時間〕</p> <p>教員等が作成した「茶の本」の小・中学生用教材を全小・中学校に配布し、郷土の先人の気概に触れる学習を推進しました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>より多くの子どもたちが本物の文化芸術に触れる機会を増やすため、県立音楽堂の公演における児童・生徒の無料招待、子どもが楽しめる音楽公演の開催、各種行事をはじめ学校等における音楽公演の開催等、学校等において文化芸術を鑑賞、体験できる機会の提供を進めます。</p> <p>〔 県立音楽堂児童・生徒無料招待者数 24,000人 〕</p> <p>※内訳 子ども鑑賞シート 4,000人 ちびっ子コンサート 20,000人</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>県立音楽堂において子ども鑑賞シートの設置およびちびっこコンサートを実施しました。</p> <p>〔 子ども鑑賞シート 公演数 11公演 参加者数 1,562人 ・ちびっ子コンサート 公演数 20公演 参加者数 21,566人 〕</p> <p>学校等において文化芸術を鑑賞、体験する芸術鑑賞教室を実施しました。</p> <p>〔 公演数 20公演 参加者数 11,119人 〕</p>	
<p>より多くの子どもたちが本物の文化芸術を鑑賞体験できるよう、各公民館等における文化芸術体験の充実とともに、文化少年団の設立の推進や文化団体等が実施する子どもたちを対象とした文化芸術の体験活動を支援するなど、地域における文化芸術を体験する機会の提供を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>子どもたちが地域において芸術文化を体験する機会の提供に努めました。</p> <p>〔 ・伝統文化子ども教室(文化庁事業) 採択件数 27団体 ・文化体験プログラム(文化庁事業) 採択件数 1件(鯖江市) ・文化少年団の活動拡大 17市町教育委員会を巡回するとともに、地域文化リーダー交流会を開催し、文化少年団の設立を働きかけました。 〕</p>	
<p>文化芸術活動に取り組む子どもたちの活動意欲や技術向上を図るため、学校等においてプロの芸術家等専門家から直接指導を受けたり、活動の成果を発表する機会の充実を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本県ゆかりの著名な文化人や芸術家を学校に派遣する文化芸術アカデミーを実施しました。</p> <p>〔 ・実施校数 10校 ・内 容 合唱3、吹奏楽3、美術2、演劇1、文芸1 〕</p> <p>文化活動に携わる若者や子どもたちを対象に、県内外で活躍するプロの芸術家が直接指導するヤング・アート・キャンプを実施しました。</p> <p>〔 ・実施回数 5回 ・内 容 合唱2、吹奏楽1、美術1、演劇1 〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
6	<p>スポーツの振興</p> <p>県民の誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを更に進めるため、県民スポーツ祭の開催手法を工夫し、より多くの県民が参加できるようにします。</p> <p>〔 県民スポーツ祭参加者数 28,000人 〕</p>	<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>18年度は、ニュースポーツ等の体験競技種目の拡充や年齢区分を増やすことなど参加者増加のための工夫を行いました。市町対抗の部において市町村合併によりチーム・参加者数が減少し、目標には届きませんでした。今後も、市町対抗の部の参加チーム数と、交流の部に参加しやすい競技(ニュースポーツ)を増やし、より多くの県民が参加できるよう努めます。</p> <p>〔 <18年度県民スポーツ祭(17市町)> 夏季大会5/27～10/29 冬季大会11/25～1/14 市町対抗の部 38種目 5,194人 交流の部 58種目 6,008人 高校生の部 31種目 6,196人 中学生の部 18種目 6,132人 競技役員 2,265人 計 63種目 25,795人 ※種目計は部門別で重複するため合計と一致しない。 〕</p>	
	<p>本県選手が全国レベルの競技会や国際大会で活躍できるような競技力の向上を図るため、県体育協会や競技団体と協力し、ジュニア層の強化・指導者の育成やスポーツ医・科学的サポートを実施します。</p> <p>〔 国体選手のメディカルチェック 年8回 アドバイザーセミナー(栄養・トレーニング方法) 年4回 シンポジウム(若手スポーツ選手のマネージメント) 年1回 〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ドーハにおいて開催された、第15回アジア大会では本県選手が6競技10種目で入賞しました。また、ジュニア層を中心に5競技で選手14名、指導者4名が日本代表として海外遠征や国際大会に参加しました。ジュニア層の育成強化を目的に、18年5月に県体育協会内部にジュニア対策総合企画委員会を設置しました。国体選手などの有望選手1,157名に対して、健康管理、適切なトレーニングなどのスポーツ医・科学的サポートを行いました。</p> <p>〔 国体選手のメディカルチェック 年8回実施 アドバイザーセミナー(栄養・トレーニング方法) 年4回実施 シンポジウム(若手スポーツ選手のマネージメント) 年1回実施 〕</p>	
	<p>スポーツの振興と地域の活性化を推進するため、小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に開催する「スポーツ拠点づくり推進事業」を実施する市町に対し、スポーツ施設の整備を支援します。</p> <p>〔 対象地区 越前町 ホッケーコートの人工芝整備(2面) 〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>越前町のホッケー競技場2面の人口芝コートへの改良を実施しました。このコートを会場に平成18年11月18～19日に「第7回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」が開催されました。</p> <p>〔 対象地区 越前町 ホッケーコートの人工芝整備(2面) 〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤 正治
取組項目		取組結果	
○個別項目		〔成果等〕 目標を達成しました。	
1 学校教育の充実 (1) 県立高校の再編準備 生徒数の減少等に伴い、その適正規模の検証や機能強化に向けた県立高校の再編、統廃合について検討を行い、これからの県立高校の在り方を協議します。さらに、福井県高等学校教育問題協議会に諮る準備を進めます。		19年度内を目途に再編整備の在り方を検討することとしており、本年度においては、今後幅広い観点から議論するための基礎データの収集等を行ってきました。	
(2) 「中高一貫教育」の推進 連携中学校・高等学校の教員や生徒の交流を、授業、学校行事、部活動等において、積極的に進めます。また、各地域において連携クラスを編制し、発展的学習を内容とする選択教科によって、高等学校の学習内容を先取りするなど特色ある教育活動に取り組んでいきます。		〔成果等〕 目標を達成しました。 連携中学校・高等学校の教員や生徒の交流を授業、学校行事、部活動等を通じて行いました。 また、連携クラスを編制し、高等学校の学習内容を先取りするなど特色ある教育活動に取り組みました。	
〔実施地域〕 あわら地域： 金津高校、芦原中学校、金津中学校 朝日地域： 丹生高校、朝日中学校 三方・美浜地域： 美方高校、三方中学校、美浜中学校		〔実施地域〕 あわら地域 : 金津高校、芦原中学校、金津中学校 朝日地域 : 丹生高校、朝日中学校 三方・美浜地域 : 美方高校、三方中学校、美浜中学校	
(3) 高校入試制度の改善 各学校が特色ある学校づくりへの取組みを一層充実するため、その特色に応じた生徒を選抜できるように、出願方法や問題作成の在り方、受験機会の複数化等について検討します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 ①入試を前期日程と後期日程に分け実施する「受験機会の複数化」、②各高校が学力検査において、各学校・学科の特色に応じた自校問題を使用する「学校独自問題」、③入学後の進路選択のミスマッチに対応する「入学後の進路変更システム」等について幅広く検討を行っています。	
(4) 学校評価の推進 学校評価モデル校を指定し、実情を踏まえた共通評価項目の設定・評価結果の公表等を検討し、教育活動等の改善・活性化につながる学校評価を推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県下の小中高校の中から31校をモデル校に指定し、評価項目・基準、指標等について検討しました。年度内にモデル校が取り組んだ実施事例等を全ての学校に周知し、学校評価が普及するよう努めます。	
〔モデル校〕 小学校14校、中学校6校、県立学校10校		〔モデル校指定状況〕 小学校14校、中学校7校、県立学校10校 計31校	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>(5) 英会話力の向上 グローバル社会において幅広く活躍する人材を育成するために、児童・生徒の英会話力を養成します。小・中学校において、外国人講師を招いた英会話教室等を実施するとともに、長期休業期間等に子供たちがALTと触れ合う機会を増やします。高等学校においては、特に、英語のリスニング力の向上のための取組みを積極的に支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 小学校27校、中学校7校、高校3校で英会話力向上のための事業を積極的に推進しました。</p> <p>〔 ・大学入試センター試験における英語リスニングテスト 17年度、18年度 連続全国1位 実施内容 ・県内11か所で小学校英語集会または中学校英語セミナーを実施 ・指定小・中学校の研究結果報告書を全小・中学校に配付 〕</p>	
<p>(6) 不登校対策の総合的推進 不登校の未然防止や早期発見、早期解決を図るため、児童・生徒や県民に向けた不登校に関する総合的な施策を実施するとともに、最も多感な時期の生徒を抱える中学校に「心の専門家」であるスクールカウンセラーを配置します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 不登校未然防止に向け、小・中学校間の交流活動を実施しました。(15中学校区) 子どもの話し相手となる大学生を「心のパートナー」として小・中学校等に派遣しました。</p> <p>〔心のパートナー派遣回数 1,849回〕</p> <p>教員や一般県民対象のカウンセリング研修会や講演会を県内9地域で16回開催しました。 スクールカウンセラーを中学校71校に配置しました。</p>	
<p>研修等を通じカウンセリングマインドを持った教員を増やすほか、高校に専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 カウンセリングマインドを持つ教員を年間2名養成しています。また、全ての学校に専門的なカウンセリングの知識や技能を身に付けた教員を配置しました。</p> <p>〔 研修期間：10月～3月(6ヶ月) 研修場所：筑波大学修士課程教育研究科 (カウンセリング専攻) 〕</p> <p>県立高等学校教育相談担当者連絡協議会を開催し、教育相談に関する問題点等について、情報交換を行いました。</p>	
<p>面接週間を設けるなど、担任と生徒との個人面接の機会を増やし、不登校生徒発生の未然防止に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 全学校において教員が児童・生徒一人ひとりと個別面談を行いました。</p>	
<p>(7) 職業観・勤労観の形成 中学生から望ましい職業観・勤労観を形成するため、職場体験学習の一層の充実を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 全中学校において職場体験学習を実施しました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>高校生の段階で望ましい職業観・就労意識を向上させるため、インターンシップをはじめとする総合的な取組みを実施し、離職率の低下を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>就労意識を高めるための講演会や就業体験等を実施し、望ましい職業観・就労意識の形成を図りました。</p> <p>〔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会を県立高校18校で実施 ・高校1年生を対象に県立高校18校で職業適性検査を実施 ・11月に高校1年生の希望者を対象にコミュニケーション能力の向上を図る講座を実施 ・高校2年生を対象に県立高校18校で就業体験を実施 ・卒業生の就職先企業訪問を実施 <p>〕</p>	
<p>将来の適切な進路選択に資するために、専門高校において、生徒のニーズを踏まえた進路指導の充実を図るとともに、国家資格等の取得を目指した効果的な指導を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>将来の適切な進路選択に資するために、就職試験対策講座や国家資格等の取得を目指した対策を実施しました。</p> <p>〔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職試験対策の講座の実施 実施回数:2回(7、8月) 対象:高校3年生の希望者 ・国家資格取得者数 延べ2,571人 <p>〕</p>	
<p>(8) 特別支援教育の推進 盲・ろう・養護学校教諭免許状取得のための免許法認定講習および特別支援教育コーディネーター養成研修を拡大して実施し、発達障害児の教育に従事する教員の専門性向上を図ります。</p> <p>〔</p> <p>特別支援コーディネーター研修受講者数 100人</p> <p>〕</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>免許法認定講習を10講座実施するとともに、小・中学校の教員を対象に特別支援教育コーディネーター養成研修を行い、専門性の向上に努めました。</p> <p>〔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーター研修受講者数 153人 (内訳:小・中学校126人、特殊教育諸学校27人) ・免許法認定講習受講者数 958人 <p>〕</p>	
<p>県特殊教育センターと盲・ろう・養護学校が連携して、小学校等に対して発達障害児の教育についてのガイダンスおよび巡回相談を実施します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校の教職員に対する発達障害児の教育についてのガイダンスや、県特殊教育センターと養護学校等が連携した巡回相談を実施しました。</p> <p>〔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス実施 192校 (内訳:小学校146校、中学校46校) ・盲・ろう・養護学校による巡回相談実施延べ回数 3,643回 (内訳:幼稚園32回、保育園1,345回、小学校1,818回、中学校343回、高校58回、その他47回) <p>〕</p>	
<p>障害のある児童・生徒にきめ細かな指導を行うため、特別な支援を必要とする児童のいる小学校や特殊学級に在籍する児童・生徒の多い小・中学校に非常勤講師を配置します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>一斉指導で対応できない特別な支援を必要とする児童のいる小学校に、非常勤講師を15人配置しました。 特殊学級に在籍する児童・生徒の多い小・中学校に、非常勤講師を4人配置しました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤 正治
取組項目		取組結果	
2 教育環境の改善 (1) 県立学校の冷房設備の整備促進 今年度は、新たに県立高校11校において、冷房設備の整備促進への支援を行います。		[成果等] 目標を達成しました。 県立高校11校の冷房設備を整備しました。	
[平成18年度 11校]		[平成18年度実績 11校]	
(2) 小・中学校の耐震化促進 学校施設は、児童・生徒の学習の場であるとともに、地域住民の応急避難場所としての役割を果たすことから、災害時の安全・安心の確保を図るため、県内の小・中学校の耐震診断等に助成を行い、緊急度が高い棟の耐震化を100%にします。		[成果等] 目標を達成しました。 耐震診断については、210棟実施しました。 また、補強工事については、補強工事10棟、改築により5棟の合わせて15棟の耐震化を図りました。	
[平成18年度計画 耐震診断 120棟 補強工事 15棟]		[平成18年度実績 耐震診断 210棟 耐震化(補強)工事 15棟]	
3 青少年の健全育成 少年非行を着実に減らすため、「福井県青少年育成アクションプラン」に基づき、民間団体と協力しながら、青少年の健全育成や非行防止対策を実施します。		[成果等] 目標を達成しました。 青少年にボランティア活動を体験する機会を提供するとともに、学校、市町、民間団体等と連携・協力して補導活動等に取り組んだ結果、対前年比で非行少年数は約6%、不良行為少年数は約15%減少しました。	
[ボランティア活動(ユースチャレンジャー隊)の参加者数 840人 非行防止一斉行動 街頭補導活動 夏季2回、冬季1回(各3日間) マナー指導の強化 学業期間中2回(各3日間)]		[ボランティア活動の実施(ユースチャレンジャー隊) 県内7箇所で開催委員会を設置して実施 参加者数(目標)840人→(実績)2,004人 ・街頭補導活動(参加者 4,922人) 18年7月19日(水)～21日(金) 18年9月4日(月)～6日(水) 18年12月20日(水)～28日(木) ・マナー指導(参加者 196人) 18年11月20日(月)～22日(水) 19年2月14日(水)～16日(金) ・非行少年数 17年 769人 → 18年 725人 ・不良行為少年数 17年 3,444人 → 18年 2,934人]	
児童・生徒の問題行動について実態に即した対応や抑止を行うため、市町や関係機関で構成する「福井県児童・生徒問題行動地域対策会議」を県下11地域で開催します。		[成果等] 目標を達成しました。 県下11地域で「福井県児童・生徒問題行動地域対策会議」を開催し、解決方法や防止策の検討を行うとともに、具体的に発生した問題行動の解決に向けたサポートチームを立ち上げて迅速に対応しました。	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>4 地域の教育力の向上 (1) 「福井型コミュニティ・スクール」の推進 開かれた学校づくりを推進するため、全市町に設けられたモデル校の取組を基に福井型コミュニティ・スクールを今後3年間で県内の小・中学校に拡大します。 また、各学校に設置する「地域・学校協議会」において子どもの安全や外部評価などに関する事項を取り扱うよう、これらの組織の一元化に向けた検討調整を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 新たに推進校を105校指定し、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、組織の一元化についてのモデル校を選定し、地域・学校協議会の構成メンバー、協議内容等の検討を進めました。</p>	
<p>〔福井型コミュニティ・スクール設置校〕 15～17年度 28校(モデル校) 18年度 小・中学校 100校 19～20年度 " 165校</p>		<p>〔福井型コミュニティ・スクール設置校の状況〕 15～17年度 28校(モデル校) 18年度 小・中学校 105校 合計 133校</p>	
<p>(2) 家庭、地域、学校の連携 スポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動を行う「地域子ども教室」を実施し、子どもの安全に配慮した居場所づくりに積極的に取り組みます。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。 県内全市町に26実行委員会を組織し、5箇所の県立青少年教育施設を含む155箇所において、地域に根ざした多様な体験活動や地域住民との交流活動を提供する「地域子ども教室」を実施しました。 また、教室の運営に当たっては、地域の多くの方々との協力を得ながら特色ある活動を展開し、今後の事業定着のための基盤づくりに努めました。 さらに、平成19年4月から実施する「放課後子どもクラブ応援事業」の創設に向け、積極的な活動を実施しました。</p>	
<p>〔地域子ども教室の年間参加者数〕 173,000人</p>		<p>〔地域子ども教室の年間参加者(児童・生徒)数 延べ230,000人〕</p>	
<p>地域コミュニティ形成に向けて、公民館の運営や事業推進に携わる公民館職員の資質向上を目指した専門研修を継続して実施するとともに、地域で活動する青年グループの育成に取り組みます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 初年度である昨年の講義形式の研修から、今年度は、実践的な研修を目指したワークショップ形式の研修を行い99名の参加を得ました。 また、昨年度研修を受けた公民館のうち、46館において地域と連携した新たな活動を行いました。</p>	
<p>〔地域と連携した新たな活動に取り組む公民館の割合 20%〕 〔地域で活動する青年グループ数 25グループ〕</p>		<p>〔地域と連携して新たな活動を行った公民館数 46館 (全公民館の20.2%)〕</p>	
		<p>また、青年グループの育成については、生涯学習課ホームページで県内青年グループの活動を紹介するとともに、青年団体の指導者を養成する研修会を開催し、県連合青年団が初めて開催した代表者討論会の実施につながりました。</p>	
		<p>〔地域で活動している青年グループ数 25グループ〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
5 生涯学習機会の充実 本県における漢字文化の振興を図るため、「白川文字学の室(へや)」を拡充するとともに、漢字学習講座や漢字普及講師養成講座等を開催し、県内において白川文字学を普及していく人材を育成します。		【成果等】 目標を上回って達成しました。 地域活動や県民活動の中で白川文字学を活かして普及活動できる人材を養成しました。 また、「白川文字学の室」の展示物を拡充するとともに、県内で白川文字学を広く普及する各種講座等を実施しました。	
【漢字について指導できる人材の生涯学習センターへの登録者数 10人】		【一般対象】 ・漢字学習講座 14回 [328人] ・漢字おもしろ講座 3回 [91人] ・ビデオ学習会 9回 [98人] 【指導者養成】 ・指導者養成講座 2回 [15人] 【子ども対象】 ・親子漢字講座 8回 [147人] ・漢字あそび 13回 [160人] ・冬休み漢字あそび大会 1回 [200人] ・春休み漢字あそび大会 1回 [220人] ・漢字質問受付数 38問 【その他】 ・白川静先生による講演会 6月10日 [600人] ・白川静先生追悼フォーラム 12月16日 [200人] ・白川静先生追悼展示 11月7日～12月17日 ・「白川文字学の室」特別展示 2月1日～2月25日 [1,084人] ・白川文字学パネル展(若狭図書学習センター) 3月25日～4月8日 ・公民館における普及活動(北日野公民館) [66人]	
【人材登録者数 12人】		【成果等】 目標を上回って達成しました。 白川文字学について、教員向け研修会を開催し授業で活用するなど、児童・生徒の「漢字力」の向上に向け取り組みます。	
【「白川文字学」を取り入れた漢字・文字教育実施数 120回】		また、教職員による白川文字学授業研究会を結成し、県内12の小・中学校において白川文字学を取り入れた授業実践を行いました。 ・模擬授業を取り入れた教員研修会の開催 [6月～11月開催] 小学校教員向け 4回 [194人] 中・高校教員向け 1回 [100人] ・白川文字学授業研究会による授業実践 [10月～11月実施] 小学校 6校、中学校 6校	
【白川文字学を取り入れた漢字・文字教育実施回数 321回】		【白川文字学を取り入れた漢字・文字教育実施回数 321回】	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤 正治								
取組項目		取組結果									
<p>県民が文化財に対する理解を深めるとともにふるさとに対する誇りを持てるよう、文化財の指定・登録等を推進するとともに、県内の指定等文化財の公開等の活用事業に対し積極的に支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p>									
		<p>文化財の新規指定・登録等を推進しました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">国登録有形文化財</td> <td style="width: 50%;">5件</td> </tr> <tr> <td>国登録記念物</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国選択無形民俗文化財</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>県指定文化財</td> <td>7件(有形2件、無形民俗5件)</td> </tr> </table> <p>文化財指定等推進チームを設置し、指定候補物件の調査に着手しました。</p> <p>国宝、重要文化財、県指定文化財等の公開用パンフレット・案内板等の作成、文化財の価値についての調査報告書の作成等の活用事業を支援しました。</p>		国登録有形文化財	5件	国登録記念物	1件	国選択無形民俗文化財	1件	県指定文化財	7件(有形2件、無形民俗5件)
国登録有形文化財	5件										
国登録記念物	1件										
国選択無形民俗文化財	1件										
県指定文化財	7件(有形2件、無形民俗5件)										
<p>(2) 公共施設(文化施設)の利用促進 県立図書館の利用者の利便性を高めるため、福井駅前と県立図書館等を結ぶフレンドリーバスの運行を継続します。</p> <p>[年間利用者数 85,000人]</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p>									
		<p>フレンドリーバスを年間313日運行しました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">利用者数</td> <td style="width: 50%;">87,059人</td> </tr> <tr> <td>参考</td> <td>運行日数 313日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1日あたりの利用者数 278人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>運行便数 12,654便</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1便あたりの利用者数 6.9人</td> </tr> </table>		利用者数	87,059人	参考	運行日数 313日		1日あたりの利用者数 278人		運行便数 12,654便
利用者数	87,059人										
参考	運行日数 313日										
	1日あたりの利用者数 278人										
	運行便数 12,654便										
	1便あたりの利用者数 6.9人										
<p>すべての地域の県民が文化に触れる機会を確保するため、嶺南地域において、移動美術館(年3回)や移動企画展(年1回:今年度は歴史博物館)を引き続き開催するとともに、嶺南地域から福井市内の中核的文化施設への直行送迎バス「フレンドリーアート号」の運行(年8回)を継続します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p>									
		<p>嶺南地域における移動美術館、移動企画展を開催しました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">・移動美術館</td> <td style="width: 50%;">小浜展(2回 若狭歴史民俗資料館)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>敦賀展(1回 プラザ萬象)</td> </tr> <tr> <td>・移動企画展</td> <td>歴史博物館移動企画展</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1回 若狭歴史民俗資料館)</td> </tr> <tr> <td>・総入場者数</td> <td>3,579人</td> </tr> </table> <p>フレンドリーアート号を8回運行をしました。</p> <p>[乗車人数 190人]</p>		・移動美術館	小浜展(2回 若狭歴史民俗資料館)		敦賀展(1回 プラザ萬象)	・移動企画展	歴史博物館移動企画展		(1回 若狭歴史民俗資料館)
・移動美術館	小浜展(2回 若狭歴史民俗資料館)										
	敦賀展(1回 プラザ萬象)										
・移動企画展	歴史博物館移動企画展										
	(1回 若狭歴史民俗資料館)										
・総入場者数	3,579人										

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤 正治
取組項目		取組結果	
<p>県立図書館の豊富な情報や魅力を広く県民に伝え来館者の増加につなげるため、しおりや名刺など多彩な手法を活用し、職員自らがセールス活動に取り組みます</p> <p style="text-align: center;">〔 県立図書館入館者数 600,000人 〕</p>		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>県民に広く利用してもらうため以下のような事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと文学コーナーの設置 [H18.4.11] ・遠隔地利用者返却サービスの実施 [H18.4～順次実施] ・子ども室における毎週末の「お話し会」の開催、親子がふれあいながら読書できるスペースの設置 ・中・高校生向けの新着図書リストを学校向けにメール配信 [H18.4～] ・ふるさと文学や白川文字学に関する「しおり」の作成、配布 [H18.4～] ・甲骨文字を記載した職員名刺の作成、活用 [H18.8～] <p style="text-align: center;">〔 入館者数 607,409人 参考 開館日数 299日 1日あたりの入館者数 2,031人 〕</p>	
<p>文化施設の効率的な管理運営を進めるため、昨年に引き続きバランスシートを作成し、コスト意識を重視した民間の経営手法の導入を図ります。</p>		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>すべての文化施設（歴史博物館、恐竜博物館、美術館、若狭歴史民俗資料館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館、県立音楽堂）についてバランスシートを作成しました。今度も、コストやサービス内容を見直し、より社会のニーズに沿った運営に努めます。</p>	
<p>文化施設の入館者の増加や施設の有効利用を図るため、セールス活動を強化するとともに、エントランスホール等の利用促進を図ります。</p>		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>文化施設への入館者増を図るため、観光商談会での誘客活動や近隣学校でのPRを実施するとともに、特別展などにおいて魅力ある展示を行った結果、来館者数が全施設合計で対前年度比20.2%増(662,000人→796,000人)となりました。</p> <p>また、恐竜博物館での結婚式の実施や歴史博物館でのコンサート開催など文化施設の利用促進を図りました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(教育庁)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	西藤正治
取組項目		取組結果	
<p>(3) スポーツイベント等の開催 本県で開催される各種全国大会を通じて、福井を全国にアピールするとともに、県内スポーツの振興に取り組みます。</p> <p>〔マレットゴルフ発祥30年記念日本マレットゴルフ選手権福井大会 (5月 福井市) 全日本実業団男子ソフトボール選手権大会 (7月 敦賀市) 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 (8月 越前町) 全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会 (11月 越前町) 全国中学校選抜ボート大会 (19年3月美浜町) 全日本中学生バドミントン選手権大会 (19年3月 福井市)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本県では、6つの全国大会が開催されましたが、大会参加者等への県内観光パンフレットの配布や、大会会場内での地場製品の販売など本県の良さを広くアピールしました。</p> <p>〔マレットゴルフ発祥30年記念日本マレットゴルフ選手権福井大会 平成18年5月28日～29日(福井市) 約300人 全日本実業団男子ソフトボール選手権大会 平成18年7月14日～17日(敦賀市) 約600人 第28回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 平成18年8月11日～14日(越前町) 約700人 全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会 平成18年11月18日～19日(越前町) 約600人 全国中学校選抜ボート大会 平成19年3月24日～26日(美浜町) 約100人 第7回全日本中学生バドミントン選手権大会 平成19年3月25日～27日(越前市) 約470人〕</p>	
<p>7 「ふくい2030年の姿」の具体化 (1) 誇りを生み出すスポーツ文化 いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指すため、地域のスポーツ活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの創設や運営を支援します。</p> <p>〔クラブ育成のための指導者等の派遣 延べ80回〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>地域のスポーツ活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの創設支援を行いました。</p> <p>〔クラブ育成のための指導者等の派遣 延べ80回 18年度における新規創設クラブ 2クラブ ・えちぜんスポーツクラブ(越前町) ・鯖江北コミュニティースポーツクラブ(鯖江市)〕</p>	